

# 宮田直彦のエリオット波動レポート

## マーケット見通し(短期アップデート) 7月7日 10:55AM 更新

### [日経平均・TOPIX]

【当面の想定レンジ】(日経平均) 50,500~73,500 円  
(TOPIX) 3400~4180

### [NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】(NY ダウ) 45,000~53,300 ドル  
(S&P500) 6300~7700

### [ナスダック 100]

【当面の想定レンジ】(ナスダック 100) 23,500~30,800  
(ナスダック総合) 20,700~27,200

### [米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000~164.000 円

### [ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 98.000~102.720

次月号は 7月14日(火)の発行予定です。

エリオット波動とは

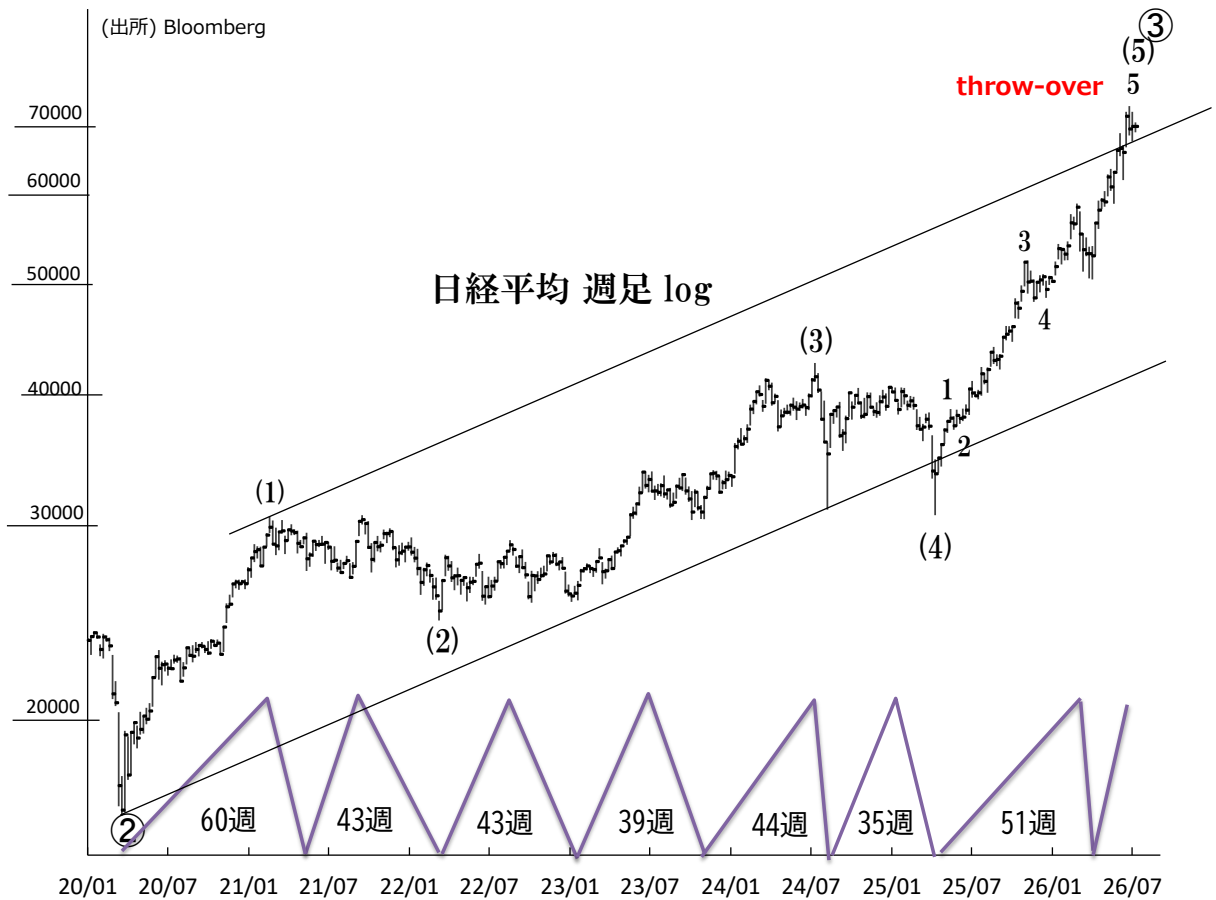
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波(合計8つの波)で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均・TOPIX



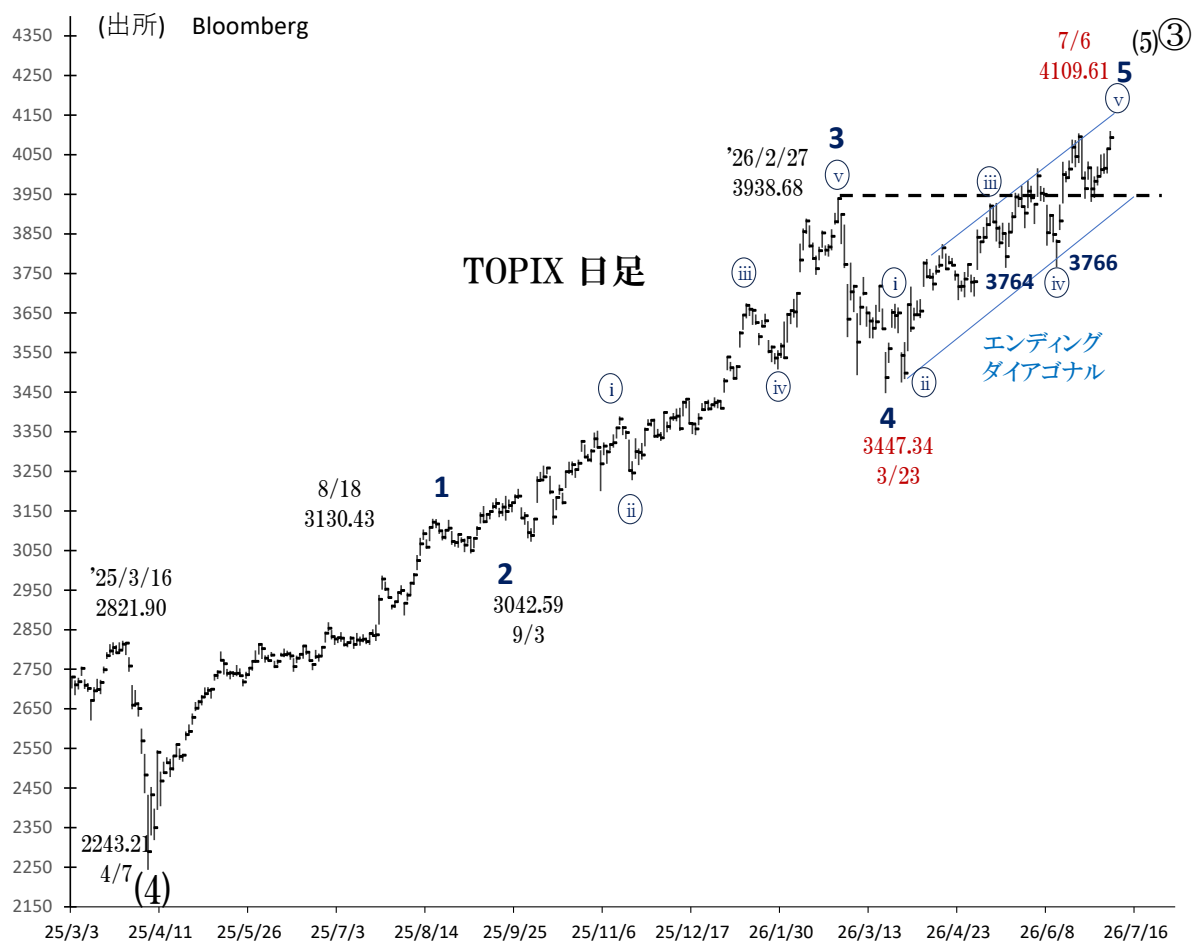
【週足 エリオット波動分析】

日米の株式市場には、17年前後の長期転換サイクルがしばしば観測されます。筆者は26年6月に17年サイクル高値を付けた可能性に注目しています。高値を付けた26年6月まで、08年10月大底から212カ月(17年8カ月)、09年3月二番底から207カ月(17年3月)が経過しています。

日経平均プライマリー第③波の天井が6月22日の72,831円だったとすると、この先は大きな調整に発展する可能性が高いでしょう。

現行の週次サイクルは、弱気型「レフト・トランスレーション(右肩下がり)」になるでしょう。上りのサイクルが13週なら、下りのサイクルは30週(6カ月)程度でしょう(※)。ここからすると今年の11月～12月にサイクル安値を付けられると思われます。

(※)週次サイクル期間(2020年以降の補正後)は45週±8週(37週～53週)。サイクルの高値から安値まで、下げ率は10%～26%(平均17%)。

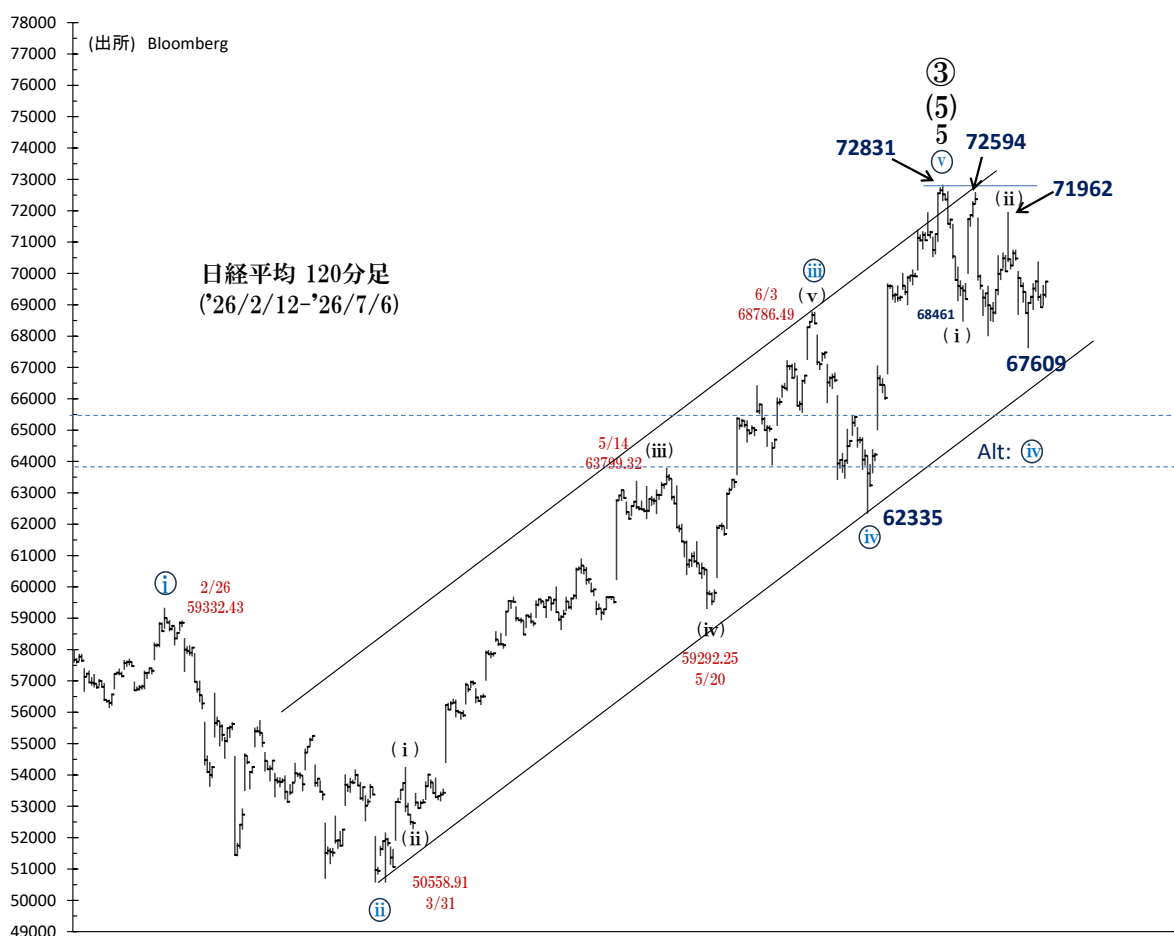


### [TOPIX]

7月6日、一時最高値を更新しました。日経平均よりTOPIXが遅れて高値を付けるのは珍しく、この点に違和感があります。もっとも、3月安値からの第5波「エンディング・ダイアゴナル」が天井パターンであることに変わりはありません。

ダイアゴナルから下された市場価格は、パターン開始水準まで速やかに下落することが通常です。エンディング・ダイアゴナルがこの日の4109で完成したかを、見極めたいと思います。3931(6/26安値)を割ると、それはプライマリー④波の調整入りの最初の合図です。

プライマリー④波の調整規模は、プライマリー①波(2018年1月～20年3月)の下げ率(37.2%)と同等か、それ以上の大きさになると思われます。



### [日経平均]

72,831 円(6/22)からの第(i)波は 68,461 円(6/24)で完了しました。そして、そこからの第(ii)波「フラット」は 71,962 円で完成したようです。

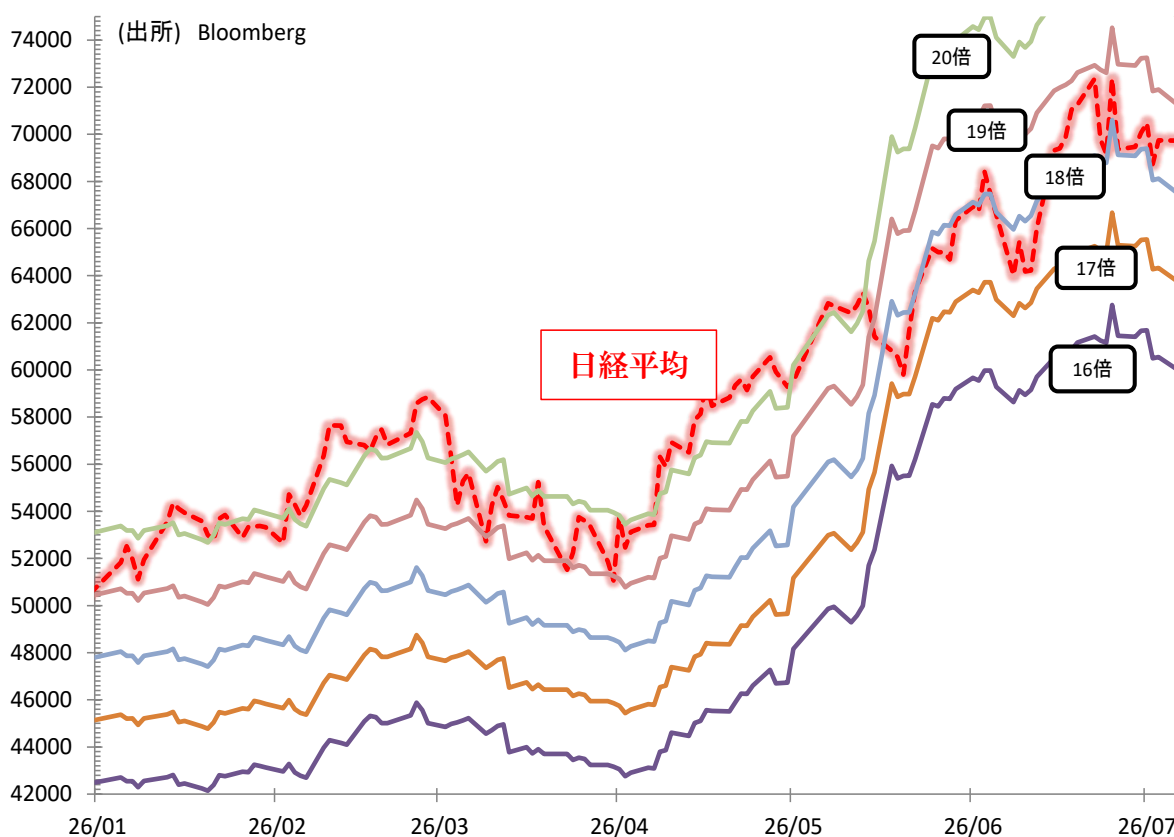
この見方によると、71,962 円から第(iii)波の下落がスタートしていることとなります。そうであれば、今来週の日経平均は下げ足を強める可能性があります。

第(i)波が 4370 円幅下げたことから、第(iii)波の下げ幅は第(i)波の 1.618~2 倍(7070 円~8740 円)となるのがノーマルです。ここから求められる第(iii)波ターゲットは[64,892 円~63,222 円]です。

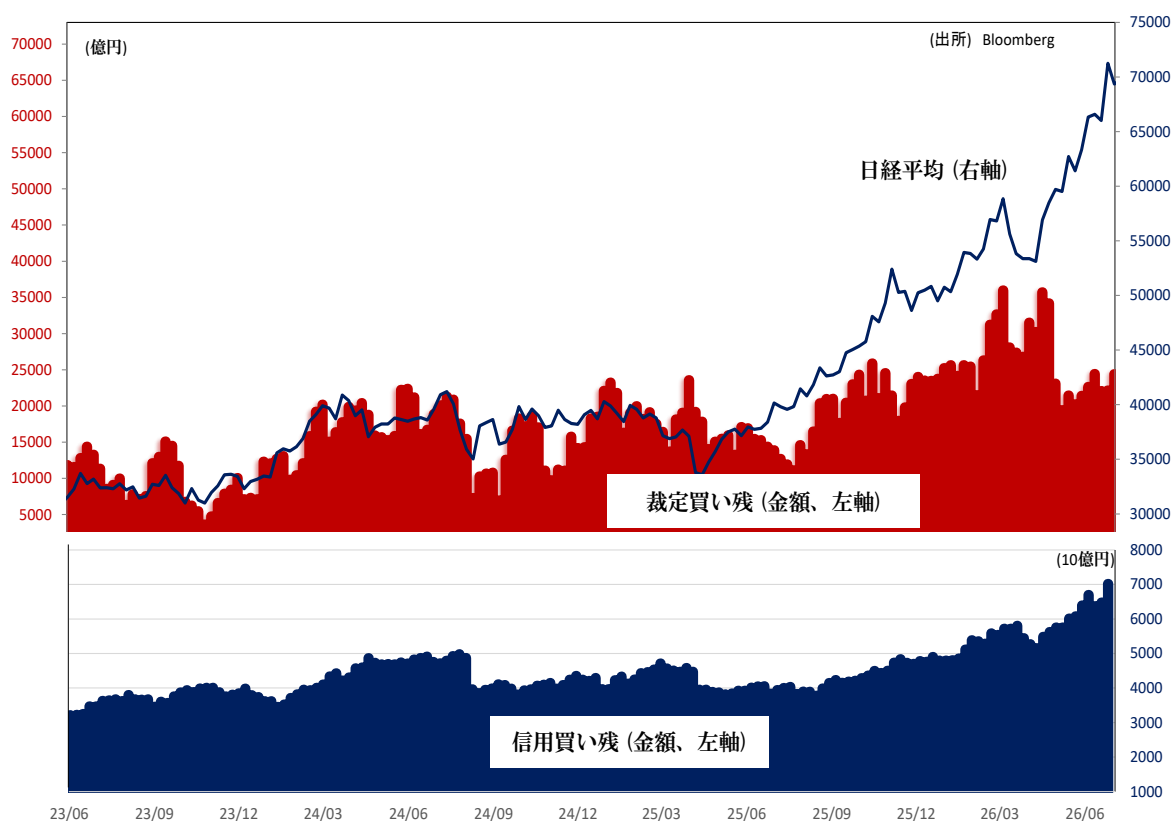
なお後述のように、米国株に「最後の上昇」シナリオがあり、日経平均に関しても代替案が必要かもしれません(Alt)。これによれば、67,609 円(7/3 安値)からはマルv波による上昇であり、それにより日経平均は最高値を更新します。それを以てプライマリー③波は完了することとなります。

### [予想 PER 別の日経平均水準]

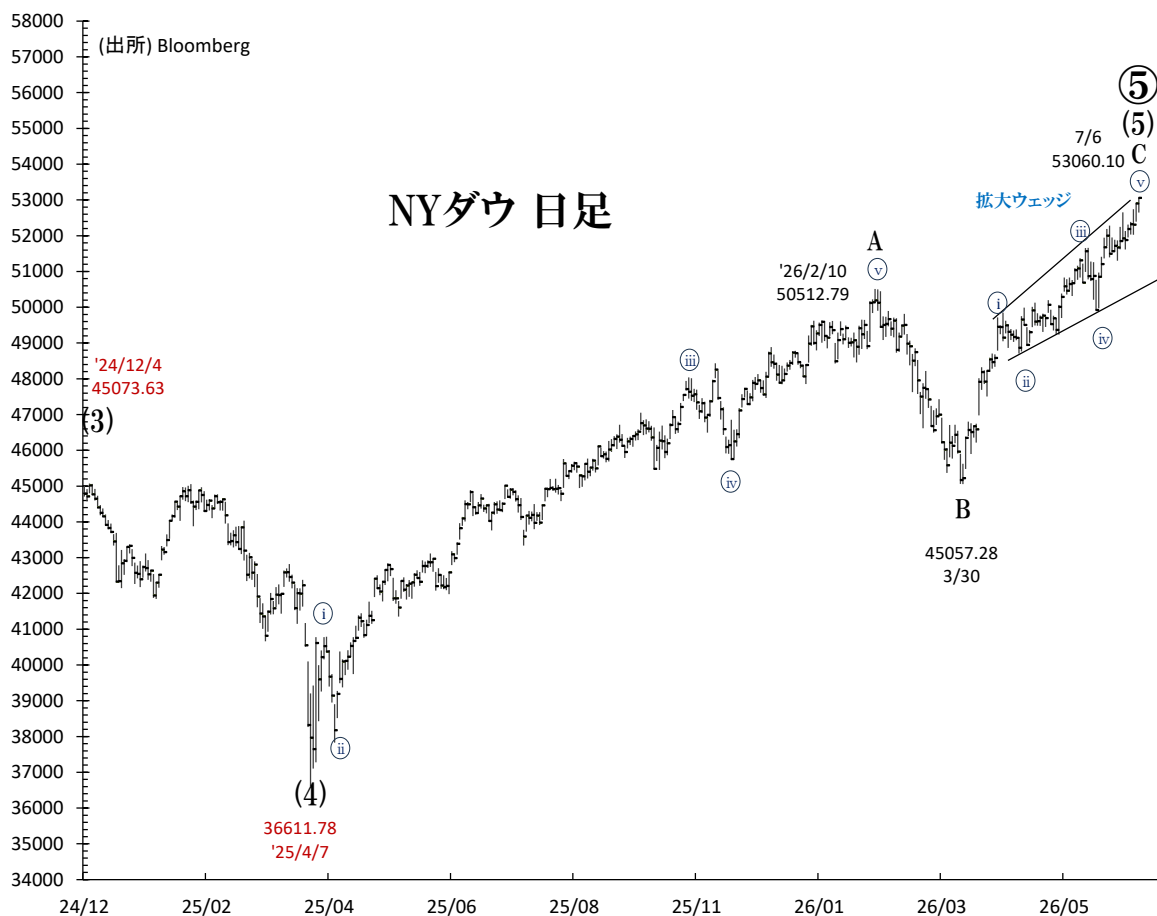
7 月 6 日の日経平均予想 PER は 18.58 倍、予想 EPS は 3753 円でした。過去最高は 3922 円(6/25)です。



[裁定買い残と信用倍率] (6月26日時点)



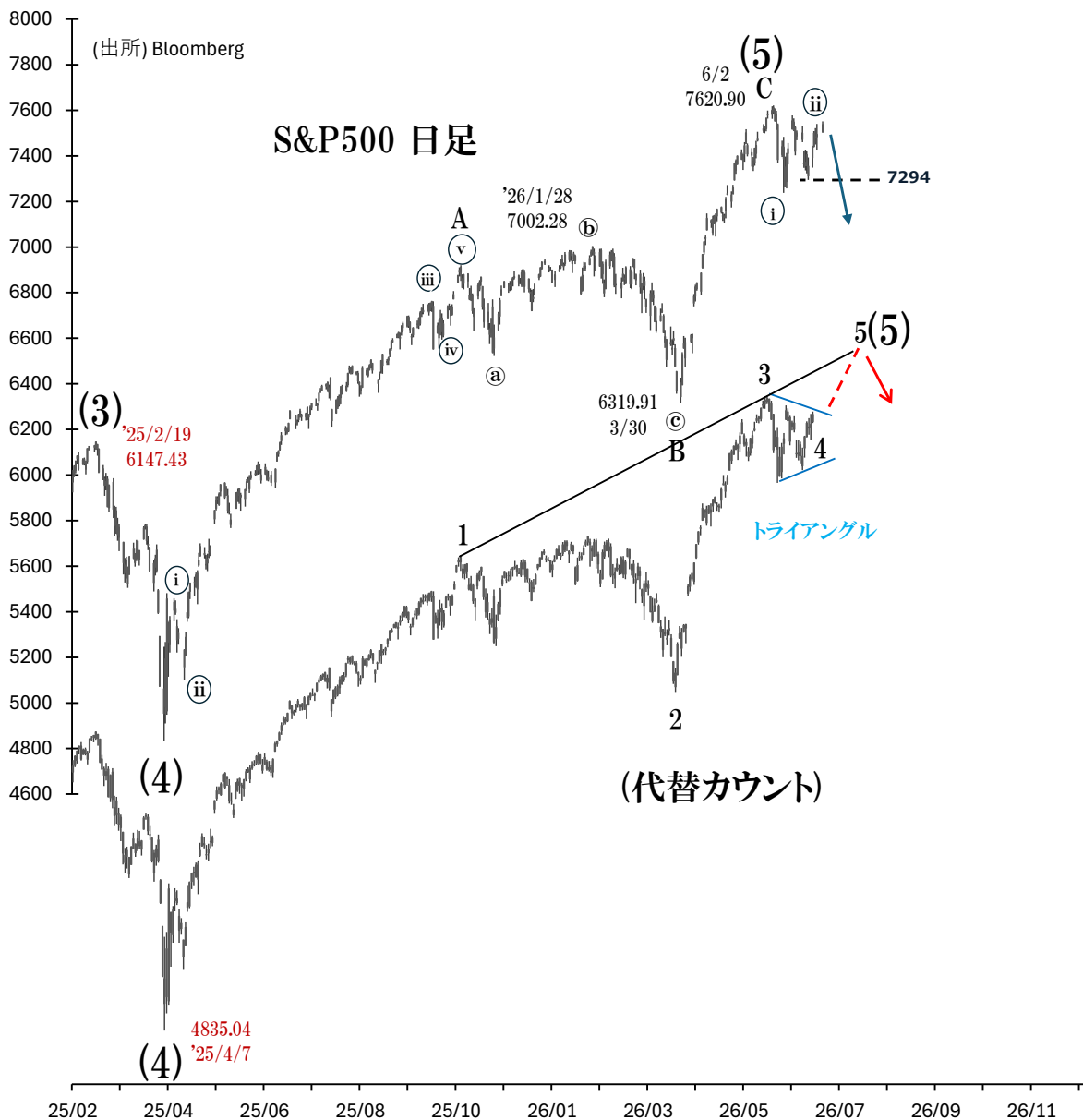
NYダウ・S&P500



【NYダウ 30日足 エリオット波動分析】

7月2日には一時52903ドルまで上昇、またも最高値を更新しました。ただS&P500の高値は6月2日に付けたままであり、両者間の「未確認」天井パターンは継続しています。

3月からの上昇C波は、マルi波～マルv波から成る「拡大ウェッジ」を形成しているとみられます。足元はマルv波がいつ完成するかの秒読みにあると思われます。



**【S&P500 日足 エリオット波動分析】**

6月2日にピークアウトしたとすると、目的的にもマル iii 波の下落がスタートするはずですが、7294 を割るとマル iii 波入りが濃厚となり、本格的な調整に入ることでしょう。

一方 7294 を維持する限り、第 4 波をトライアングルとみることができ(代替カウント)、この場合は上昇・第 5 波が控えています。この「最後の上昇」を以て、強気相場のすべてが完了するでしょう。

**SOX 指数**

6月22日のローソク足「カラカサ」は天井パターンです。この出現機会は多くありませんが、それが6月は2回もみられたのは非常に珍しく、AI・半導体株ラリー終幕の可能性を印象づけます。

最初の「カラカサ」は6月3日に現れ、その後5日間で約16%下げる動きを先導しました。2回目の今回は、6月22日高値から7月2日の安値まで15.5%下げており、ここからの下振れリスクに要注意です。

7月2日の安値 12,374 を割ると下げ基調を強め、次は6月9日の安値 11,794 を試すでしょう。

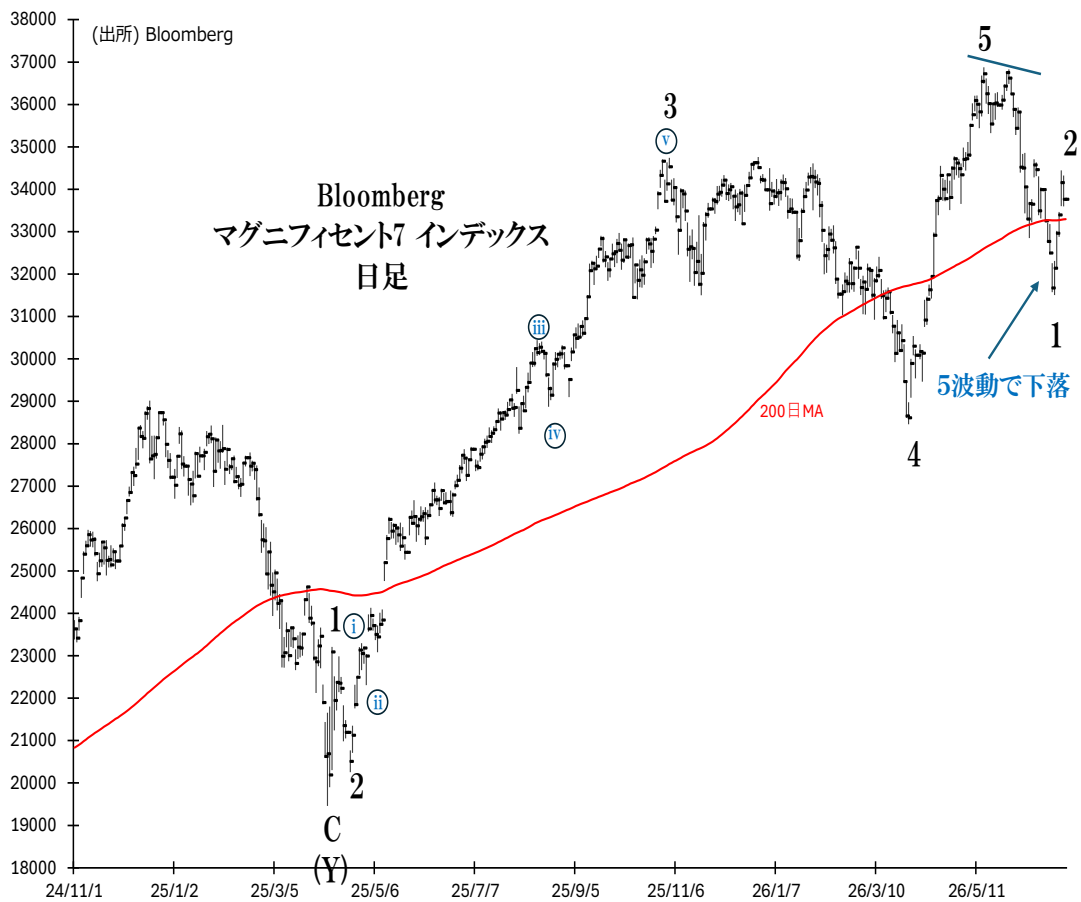


### Bloomberg マグニフィセント7 インデックス

この指数は5月14日に最高値を付けました。マグ7は他の主要指数より先行して高値を付けており、これは重要な天井パターン(未確認)です。

5月14日の高値から6月26日安値まで5波動構成(インパルス・パターン)で通算14.5%下げました。その後の上昇はリバウンドとみています。

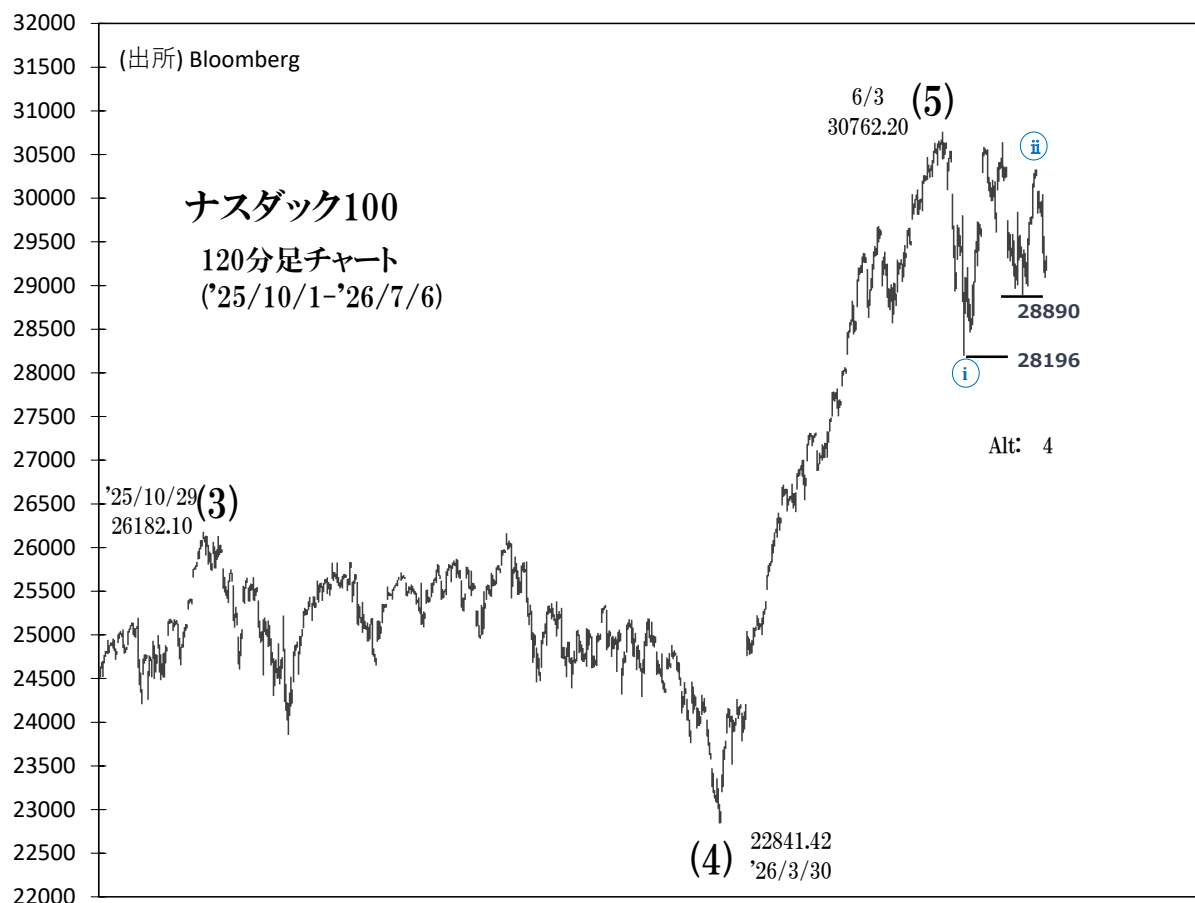
この見方が正しければ、まもなく次の下落インパルス波が始まるでしょう。そして次のインパルス波の下げは、最初の14.5%下げを優に超えるものになるでしょう。



[ダウ輸送株平均]



ナスダック 100



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

28,196(6/10 安値)と 30,642(6/22 高値)でダブル・トップを完成し、足元はマル iii 波の下落が展開中とみられます。28,890 を割ると急落場面入りの可能性が高く、この場合、近いうち 6 月 10 日の安値(28,196)は大きく破られることでしょう。

一方、S&P500 の代替カウントと同じように、6 月から足元までの基本横ばいの動きはトライアングルであり、第 5 波による保ち合い上げが近い、とみることもできます。

28,890 を割れることなく 30,642 を上抜けたなら、この見方が有望です。第 5 波は最高値を更新し、その「最後の上昇」によって長きにわたる強気相場は終わりを告げるでしょう。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

以下のように二通りの有力波動カウントが存在します。いずれも米ドル/円(以下ドル/円)上昇の終焉が近いこと、円高スタート接近を暗示します。

[波動カウント 1]

22年10月からの(B)波「トライアングル」を完成後、25年4月からは(C)波の上昇にあります。(C)波完成を以て2011年来のダブル・ジグザグ(W-X-Y)は完成し、その後は、大きな下落(ドル安・円高)を迎えることとなります。

[波動カウント 2]

21年からの(Y)波は、波動間の重なりが目立つ(A)-(B)-(C)-(D)-(E)のウェッジ・パターンを描いています。足元は(E)波の上昇にあり、それはいつ終わってもおかしくありません。

日米実質金利差から導かれる米ドル/円の水準は、現在1ドル=139円~140円です。日本円は金利差からの妥当な水準より極端な過小評価にあり、それは1年以上に渡り続いています。

加えて購買力平価からの妥当な円相場はOECD算出のGDPベースで1ドル=97円~103円です。長期的にみても現在の日本円は著しく過小評価されています。

「円安バブル」の崩壊は、円キャリー取引の巻き戻し(円買い戻し)によって引き起こされるでしょう。



【日足 エリオット波動分析】

25年4月(139.877円)からの上昇(C)波は、(C)波は5つの波(1~5)で構成されます。154.983円(5/6)からは第5波目に当たります。

足元の39年半ぶりの162円台が一時的なものになるかを見極める局面です。もしも第5波が終わったとすれば—例年7月の円高傾向(7月円高アノマリー)も注目されます—差し当たり25年4月からのサポートライン(今週は158円台前半)を試す可能性があります。

金利差からのドル/円推計値

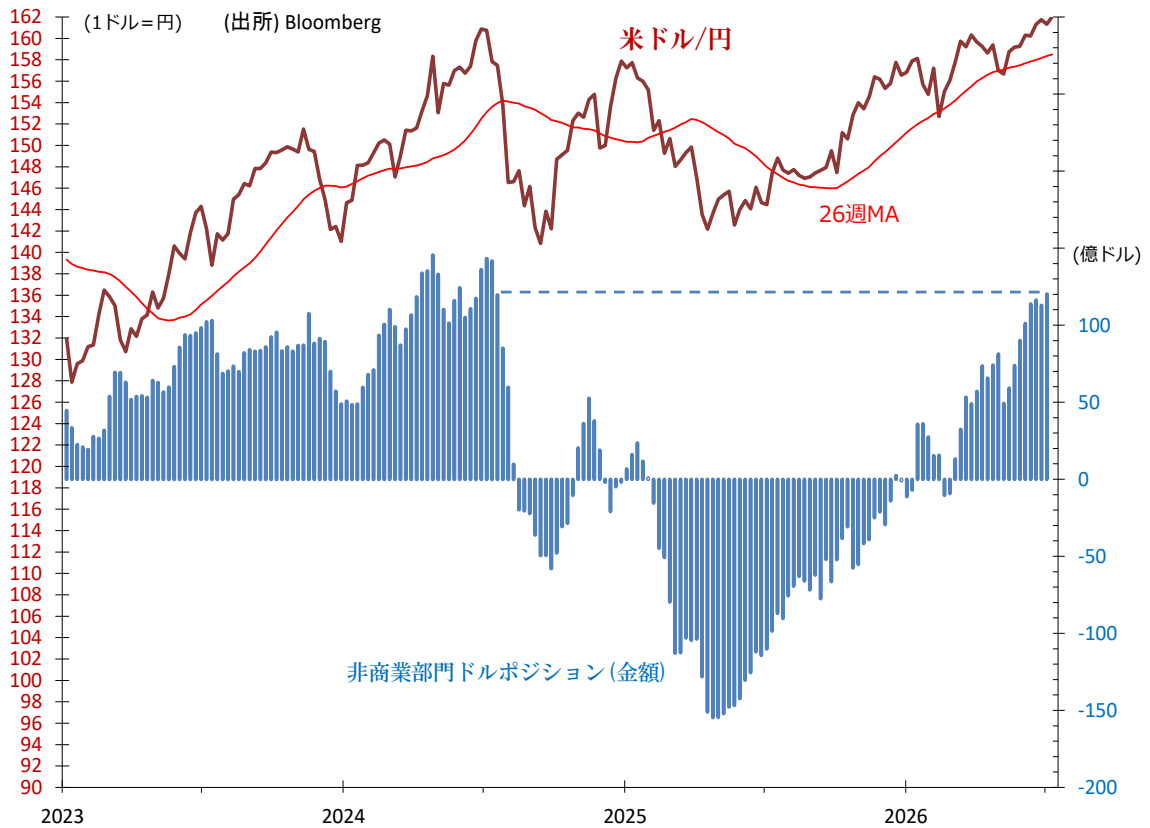
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[139.435円]です。

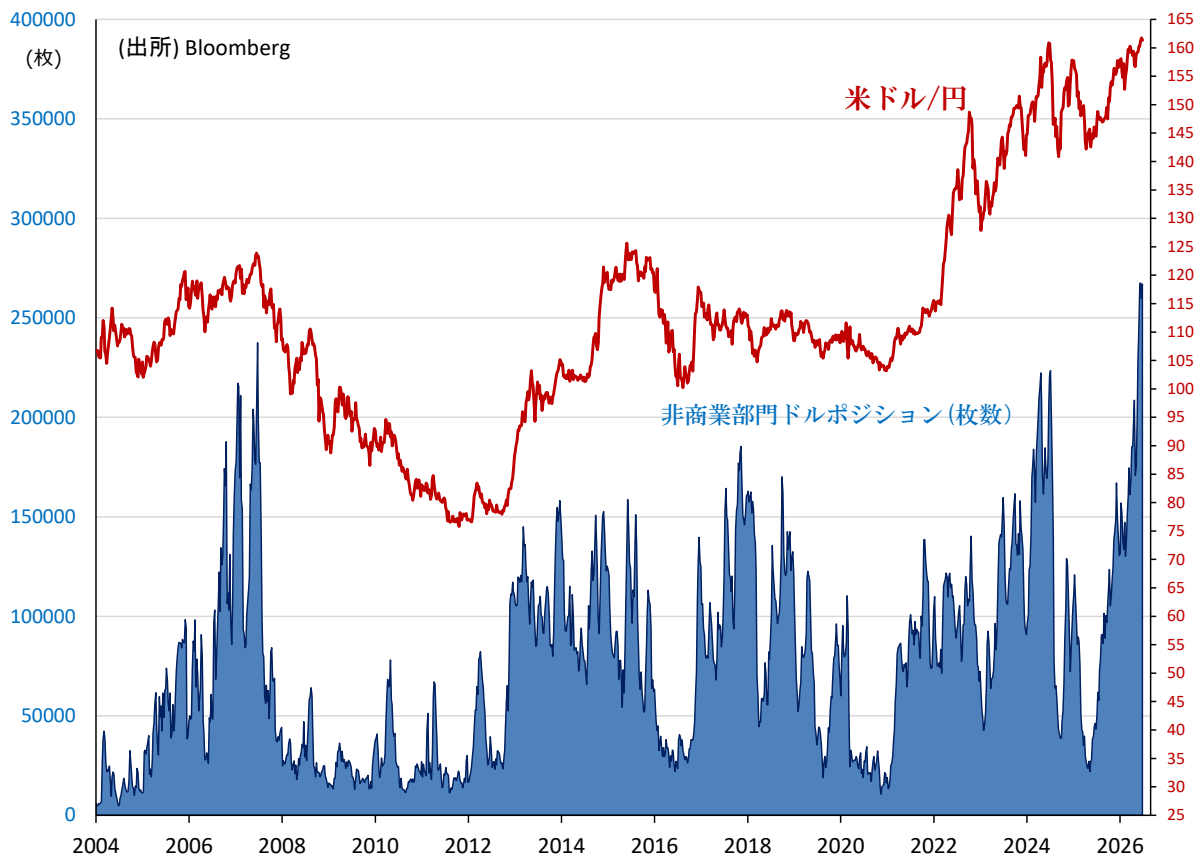
円売り持ち高が2年ぶり大きさに (2026年6月30日時点)

IMM 通貨先物市場において、投機筋(非商業部門)の円売り持ち高は、前週の113億ドルから119.3億ドルへ拡大。24年7月以来2年ぶり高水準の円売り持ち高となりました。

円売り枚数は過去最大レベル

6月30日時点で、投機筋の円売り持ち枚数(26.69万枚)は過去最高の水準にあります。円高へのマグマは溜まっています。





ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

22年9月高値からのドル安②波は、「トリプル・ジグザグ(W)-(X)-(Y)-(X)-(Z)」のコースを辿っているとみられます。

今年1月安値からのドル高は、②波中の(X)波であり、それが終わると、次は3番目のジグザグ(Z)波が展開されていく、と思われまます。

6月24日に付けた高値(101.800)は、ターゲットの[101.138-102.717]内で付けました。それを以て(X)波が終わるかに注目です。

投機筋のドル合成ポジションは過去最高の買い持ち高に

投機筋によるドル合成ポジション買い持ち枚数は、データ遡及可能な2000年以降の最大に膨らみまし(6月30日時点で45.59万枚の買い持ち)。投機筋は過去最大級にドルに強気であることが伺え、これはドル安への燃料となります。例年7月はドル安になる傾向が強いことが知られています。今年前半のドル高の終了、ドル安への転換が始まりつつあるかもしれません。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

### 当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

---

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

---